

白砂青松に透き通る海、瓦屋根が美しい集落を訪ねる

尾鷲市 三木里町

熊野古道伊勢路の最難関と謳われた八鬼山の麓に位置する尾鷲市三木里町は、海と山の間の集落におよそ3000人が暮らし、古い家並みが残る通りに風情が漂います。

八鬼山の頂上は627メートルで、勾配がきつい上に、かつては狼や山賊が出没するとして旅人や巡礼者から恐れられました。その険しい山を降りた三木里で、みな安堵したことでしょう。

そんな旅人の往来が聞こえてきそうな旧街道と白砂青松の美しい海岸線を歩けば、豊かな自然に触れ、町の歴史を垣間見ることが出来ます。三木里在住の濱口精幸さんに、地元の祭りなどもお聞きし、町を案内していただきました。

三木里のある尾鷲市南部の海沿いは複雑なりアス海岸で、入り江の奥に点在するそれぞれの集落をJR紀勢本線が結んでいます。

取材・文：中村元美

白砂青松の静かな海でリフレッシュ

今回の散策の起点・終点は、JR三木里駅です。高台にある小さな無人駅で、背後には桜や新緑の頃に色付く山があり、森林浴を楽しめる「野鳥の小路」が整備されていますが、この日は青く輝く海に向かって歩きます。

駅から八十川と並行する県道159号に出て少し行くと、集落沿いの細い道と交差する角に「ひだりくまのみち」と書かれた高さ1.5メートル程の道標が立っています。美しい崩し字の書体からみて、文化・文政(1804~1830)の頃のものといわれています。この道標は、二つに折れて横倒れになっていたの



電柱脇に花崗岩の道標



至JR「熊野市」駅

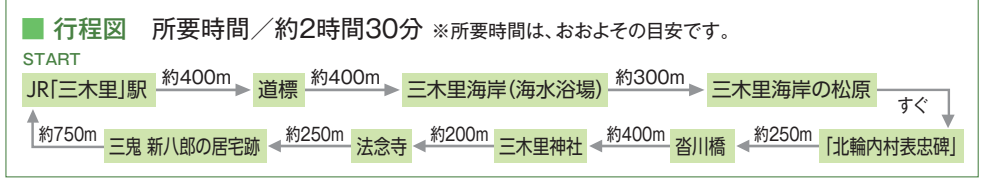
至三木里IC



今回の案内人は三木里在住の濱口 精幸(はまぐち せいこう)さん。小学校教頭を退職後は、三木里で農作業に励み、地元の人々と触れ合っています。



八十川河口の船溜まり



を地元の人が発見し、この場所に建て直しました。

集落に入り、海へ向かって進みます。定期的に野菜を並べる無人市場やレトロな銭湯跡などを濱口さんに教えてもらい歩いてみると、程なく国道311号に出ます。道路を渡った先には三木里海水浴場の駐車場があり、右側の八十川河口付近は船溜まりとなっています。

尾鷲市南部の海沿いに集落は8つあり、それぞれに漁業が中心の港を有していますが、その中で唯一、白い砂浜が美しい広々とした海水浴場を持つのが三木里です。町には漁港がないため、船溜まりのほとんどが遊漁船だそうです。かつてはここから船で渡る海路が発達していましたが、路銀の乏しい巡礼者にとって船旅は難しく、三木峠・羽後峠を越える陸路を頼りにしていたようです。

三木里海水浴場は60年ほど前に整備され、県内でも屈指の遠浅の海。波音を聞いて歩けば、気分も爽快です。季節になるとキャンプやシーカヤック、ときお



三木里海岸の松原は市の史跡名勝記念物

りウインドサーフィンを楽しむ人の姿も見受けられ、オープンウォータースイミングの大会も開かれています。

海岸沿いにマツの木が枝を広げていますが、ここに正徳2(1712)年、紀州五代藩主でもある八代将軍・徳川吉宗が防風林としてクロマツを植林しました。当時の木はところどころに残され、胸高4メートル、樹高20メートル以上になる立派なマツもあります。「子どもの頃にはマツの木に登って、よく怒られま



曹洞宗の法念寺



御本尊は阿弥陀如来



古い家並みが残る通り



新八郎の居宅跡を囲う石垣

の山門が見えてきました。境内にはナギの木とバクチの木が並び、お堂裏手にある池には鉄魚が息をし、県の天然記念物



フナの変種である鉄魚

「でんじ」と呼ばれる連子格子と、雨、風をしのぐための「雁木」の家が今も残り、かつての趣きをしのばせてくれます。



軒先の「雁木」の造り

TEL 05997-28-3046
TEL 090-1504-3046

少し歩いたところで瀨口さんが路地へと案内してくれました。高い石垣に囲まれた場所が、大坂冬の陣で敗れた豊臣方の三鬼新八郎の居宅跡です。隣町の三木浦に出城をつくり、当時の三木荘（北輪内・九鬼村を治めていた人物です。旧街道に戻って坂道を下りると、元来た道にぶつかり、ゴールの「JR」三木里駅）も間近です。自然と共存し、郷土に受け継がれたものを守ってきた町の歴史に触れるひとときです。

問 三木里地区会

旧街道沿いに残された風情あるたたずまい

町の守り神とされる「御幣」を取り換えます。300年以上続く神事とされ、海水で身を清める「垢離掻き」など昔からの儀式が受け継がれています。

旧街道に戻って歩くと、右側に法念寺

海際へ戻って歩きます。堤防が終わるところで左に進み、国道に合流、沓川に掛かる沓川橋を渡れば、熊野古道の難所・八鬼山の麓にある名柄集落です。八

八鬼山麓の歴史ある守り神

山寄りに三木里コミュニティセンターと三木里地区会の建物があり、その並びの広場に「北輪内村表忠碑」が建っています。これは日清戦争直後に建立されたもので、尾鷲市内で一番最初にできた表忠碑です。



浜の松、と地元で呼ばれるクロマツ

鬼山を降りた集落入り口には「名柄の一里塚」があり、また戦国時代の武将のものと思われる「五輪塔」の話を瀨口さんから聞き、今回はこの橋で引き返します。来た道に戻っていると、昭和30年頃まで木橋が掛かっていたという場所を瀨口さんが教えてくれました。「対岸にお墓がありますが、その石積みに沿って道があったと記憶しています」。示された場所から逆方向に、民家沿いの道を進んで、国道を横切り、古い町並みへと続く坂道を登ります。『西国三十三所名所図絵』に「八鬼山を下り名柄村をへて三木里浦にいたる。ここは入海の船付にしてにして商売の店 旅籠屋立ちならび」



三木里神社からは町も海も一望

と書かれ、三木里の旧街道には何軒かの旅籠があったようです。右側に見上げた山肌には三木里神社の幟が揺れています。一際高い場所であり、参道石段からの眺めは抜群で、ここは津波時の避難場所としても役立ってきました。御神木は幹周り7メートルもある樹齢1200年のスギの古木で、歴史を感じさせてくれます。また境内の北側小山の頂上に祀られている浅間神社の分社・貴船神社では、富士山の山開きにあわせた「御山まつり」が行われています。7月1日の本祭で町の安全や無病息災を願い、高さ約30メートルのスギの木に、祭りを仕切る「先達」が登って、



御神木は樹齢1200年